

皆さんこんにちは。維新の会の辻信行でございます。

第3回定例会におきまして、質問の機会をいただきありがとうございます。先輩、同僚議員の皆さまにおかれましては、しばらくの間、ご清聴のほど、よろしく申し上げます。

今回は、大規模災害への備えについて、そして、シティプロモーションの取り組みなどについて、質問をさせていただきます。

私自身、市議会議員として5か月が経ち、多くの市民の皆さまとお会いし、その声をお聞きする中で、改めて、確認しておきたい点について、質問したいと思います。

まず、大規模災害への備えについてお伺いします。

南海トラフの巨大地震など、予測困難な大災害に対して、一刻も早い備えが求められています。全国各地で様々な対策が進められている中、尼崎市では、現在どのような備えがなされているのでしょうか。

市のホームページを見ると、一般的な情報が掲載され、市民に備えを求めています。市としてどのような備えがなされ、市民一人ひとりや地域に、具体的に何を求めているのか、残念ながら伝わってきませんでした。

広域的な大災害に備えて、行政は何ができるのか、地域では何を、各家庭・個人では何が必要なのか。行政が全てに備えることはおそらく難しく、各家庭・個人、地域、行政が、「自助」「共助」「公助」の役割で、備える必要があると思います。行政は、自助・共助・公助の役割を明確にし、市民の皆さんに、情報をしっかりと伝えることが大切であると考えます。

今回は、各家庭・個人が備えやすい、食料品の備蓄についてお伺いします。

現在、尼崎市では、どこに、何人分の食料品が備蓄されているのでしょうか。また、それは十分だと思いますか。さらに、尼崎市として各家庭・個人にどのような備えを求めている、それをどう市民に伝えてきたのか、お聞かせください。

次に、防犯カメラの設置補助事業についてお伺いします。

現在実施されている、地域団体を対象とした、「防犯カメラ設置補助事業」については、県の補助事業の交付決定が条件となり、1箇所あたり上限8万円で30台、募集期間が2月末までとなっています。しかし、前提となっている県の募集が6月末で終了しており、当該事業が県との協調補助であることをご存じなかった住民からは申請ができなかったとの声を聞きます。

お伺いします。

市の今年度の募集台数は30台ですが、申請台数はどのようになっていますか。お聞かせください。

また、来年度も県・市の補助制度があれば、地域団体の負担が軽減され、犯罪防止

を目的とした防犯カメラの設置がより進むことが期待されます。

来年度の市の補助制度の継続については、どのように考えていますか。お聞かせください。

次に、シティプロモーションの取り組みについてお伺いします。

尼崎城の再建を契機とした「観光地域づくり」を新たな取組として、後期まちづくり基本計画が作られようとしています。観光による地域経済の活性化に観光客の誘致は欠かせません。京都・大阪・奈良をはじめ、近隣に歴史ある多くの観光地を有する尼崎市は、「交通の利便性」が他都市には負けない財産です。それを最大限に活かすべきではないかと考えます。

「お泊りは尼崎へ」と自信を持って宣伝できる環境があれば、「宿泊はあまがさき」、「京都・大阪・奈良・姫路・神戸へは日帰り旅行」、「空いた時間は見どころ満載のあまがさき」と、尼崎の魅力も十分に感じてもらえる「観光地域づくり」ができるのではないのでしょうか。

お伺いします。

宿泊客の増加に必要な市内の宿泊施設・部屋数について、市は把握できているのでしょうか。また、必要な数を確保できているとお考えでしょうか。さらに、空き家の利活用にもつながる民泊について、シティプロモーションの観点から検討していることがあればお聞かせください。

2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催までいよいよ1000日を切りました。半世紀ぶりの日本での夏の大会は、世界中に日本の観光地をアピールする絶好の機会です。この機会を逃すことなく、尼崎市としてどう活かせるか、十分に考えていただきたいと思います。

前回1964年の大会では、ギリシャからの聖火が沖縄に届けられ、沖縄から東京の国立競技場まで、10万人を超える聖火リレーが行われたそうです。当時、私はまだ生まれておりませんが、日本中を聖火が駆け回った様子を覚えておられる方もいらっしゃると思います。

当時、尼崎市もコースに含まれていたそうですが、台風の通過が予想され、残念ながら神戸から大阪のリレーが中止となり、聖火は車で運ばれたそうです。

2020年の大会がどのようなになっているか気になりましたので、組織委員会のホームページを見てみました。すでに「聖火リレー検討委員会」が組織され、オリンピック、パラリンピックそれぞれの聖火リレーについての記載がありました。今後、各都道府県に聖火リレー実行委員会が作られるようですが、前回のような聖火リレーが実施されれば、シティプロモーションの観点からもぜひ尼崎市もそのコースになるよう、県に働きかけるなど十分努力してください。

また、市独自の行事などについても、予算の確保を検討していただきたいと思います。

市長のお考えをお聞かせください。

以上で第1問を終わります。

ご答弁をいただき、ありがとうございます。

大規模災害への備えについては、各家庭・個人が日常的に備える必要があることを、よりわかりやすく、市民の皆さんにしっかりと届く方法で繰り返し伝えていくことが大切だと思います。この状況については、今後も確認させていただきたいと思います。

また、シティプロモーションの取り組みについては、ぜひ様々な機会を活用し、準備をしっかりと行い、適した時期を逃すことなく、進めていただきたいと思います。

次に、中学校給食の開始時期について、早期実施を強く要望する立場から、お伺いします。

先日、公表された「尼崎市中学校給食基本計画」の素案で、円滑に進むことを前提に、開始時期を平成34年6月と想定するスケジュールが明らかになりました。基本計画から4年半後の実施です。時間がかかり過ぎると感じましたので、今年6月から中学校給食が実施されている伊丹市の状況を確認してみました。

伊丹市は基本計画が平成26年2月に出て、当初は2年半後の平成28年9月に実施としていました。その後、給食センターの建設予定地の土壌改良などに時間がかかり、計画から3年4か月後の平成29年6月に開始されました。

伊丹市と尼崎市では状況も異なるとは思いますが、伊丹市が不測の事態に対応しても3年4か月後に開始されたのに比べると、円滑に進んでも計画から4年半後の尼崎市は、時間がかかり過ぎではないかと感じます。期待する市民も多く、より早期の実施が望まれます。

お伺いします。

中学校給食の開始時期について、事業スケジュールを再検討し、より早期に実施することはできないか。考えをお聞かせください。

最後に、雨水貯留管の整備についてお伺いします。

集中豪雨に対する対策として、尼宝線と山手幹線の地下に、直径2～4メートル、長さ3キロの巨大なトンネルである、雨水貯留管を作る計画が進められています。

都市部の豪雨対策として、とても重要ですが、巨大なトンネルを道路の地下に作るためには、地下の工事現場への入り口となる巨大な縦穴や資材の置き場所の確保が数年間にわたって必要であり、住宅が密集する尼崎市では、場所の選定はより慎重にする必要があると考えます。

現在、南武庫之荘の城の越公園などが地下への入り口の予定地とされ、工事期間

中、公園が利用できないことや近隣の住環境への影響が心配されています。不安の声は、市にも届いていると思いますので、端的に質問させていただきます。

地下の入り口となる場所の選定はどのように行われ、地域の方々と、どう協議されてきたのでしょうか。また、地域住民の不安の声を、市はどのように受け止め、進めていこうとしているのか。お聞かせください。

以上で、私の質問を終わります。

ご清聴ありがとうございました。